

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	1 年
講義日	令和7 年 6 月 2 日(月)		
テーマ	自然共生「しあわせの村の植物を楽しもう(初夏編)」		
講 師	(社) インタープリテーションネットワークジャパン参与 高野哲司		
講義内容			
1. ねらい しあわせの村を散策しながら、身近な草木(里山の植物等)について楽しく学び、自然と共生していることを実感すること。 2. 主な内容 (1) しあわせの村を散策しながら、初夏の草木を観察します。 (2) 植物の名前の由来や特徴、五感を用いた植物観察の方法をご紹介します。 (3) しあわせの村の草木を短歌をご紹介します。 【持ち物】 ・帽子、水筒、筆記用具、首に巻くタオル、雨具、長袖、長ズボン、動きやすい服装（外歩きに適した靴など）、虫眼鏡（お持ちの方）。 【雨天時の授業について】 ・室内講義を行います。しあわせの村で初夏に観察することが出来る植物について、実物(教材)を用いてをご紹介します。			
講師からのメッセージ			
しあわせの村の植物は、里山の歴史や文化の中で育まれてきました。本講義が身近な場所の植物について、興味、関心を広げていただくための一助になれば幸いです。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	1 年
講義日	令和 7 年 5 月 27 日(火)		
テーマ	自然共生「しあわせの村の野鳥観察」		
講 師	山根みどり((公財)山階鳥類研究所 保全研究室 鳥類標識センター協力調査員)		
講義内容			
1. ねらい 鳥は、地球上のあらゆる環境に適応して広く分布し、私たちの周囲でも様々な種類の鳥が見られます。知能も高く、姿も愛らしい鳥類は、魅力にあふれた生き物です。 また、鳥は生態系の上位に位置する生き物で、環境のバロメータです。鳥が住めないような環境には、私達も住めなくなるのです。鳥の観察を通じて、環境の変化に敏感になりましょう。 この講義では、普段は鳥に関心のなかった人も、鳥をもっと身近に感じ、自然環境全体の変化に興味を持っていただけるよう、お話します。テキスト、スライド、ビデオを使い、鳥の体の仕組み、生態などをわかりやすく解説する室内講義と、実際に村内を歩いてバードウォッチングを楽しみます。 2. 主な内容 (1) バードウォッチング(双眼鏡、図鑑をお持ちの方は持参してください) (2) 室内講義 a. 鳥類とは？ b. 鳥の飛翔 c. 生活様式と形態の多様化 d. 生態(繁殖、渡り) e. 保護のための研究(標識調査)			
講師からのメッセージ			
春には、ツバメなど多くの夏鳥が日本へ渡ってきて子育てをします。5 月は鳥の子育て真っ最中。ヒナに運ぶためにエサを口にくわえて飛ぶ鳥たちの姿も見られることでしょう。鳥に興味を持っていただくと同時に、環境の変化への感度も高めていただけるよう、鳥の魅力をお話します。しあわせの村に住むたくさんの鳥たちとの出会いを楽しんでください。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	対象学年	1年
講義日	令和 7年 4月 15日(火)		
テーマ	総合学習「オリエンテーション&アイスブレーキング」 ～3年間の学びに向けて～		
講 師	浅見真一		
講義内容			
新たに ECO ライフコースで学ぶにあたり、3年間の学びに向けて、共に学ぶ仲間と出会い、人となりを理解し、相互の信頼関係のベースを作ります。 一日を通してのアイスブレーキングです。具体的には下記の内容で行います。 10：30～ オリエンテーション ECO ライフコースの学習目的、カリキュラムの柱、3年間の学びの体系などを説明し、理解を図ります。 10：40～ 実習：「素敵な学びに向けて、よろしくお願いします！」 3年間の学びにおいて必要な人とのかかわりを実習によって考えます。 13：30～ 全体会：「素敵な学びに向けて、心構えを共有しよう！」 充実した3年間を上げるために個々人の関わる姿勢を共有します。 ※午前中のセッションは12時30分終了の予定です。 午後は13時30分から開始し14時30分に終了します。			
講師からのメッセージ			
身体と頭と心を動かす体験的な学習です。 新しい生活に向けて、遊び心を持って、楽しんで取り組みましょう。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	ECO ライフコース	専攻	対象学年	1年
講義日	令和 7 年 9 月 10日(水)			
テーマ	脱炭素社会(1)地球温暖化防止とエネルギー転換の重要性 (2)世界の再生可能エネルギー動向～加速する再生可能エネルギー普及			
講 師	和田 武(工学博士、自然エネルギー市民の会代表、元・日本環境学会会長)			
講義内容				
脱炭素社会				
(1)地球温暖化防止とエネルギー転換の重要性				
2024 年の世界の気温は産業革命期に比べて 1.55℃上昇したが、地球温暖化の現状と未来予測に基づき、産業革命以降の気温上昇幅を 1.5℃未満にする必要性を解説する。特に今後の気温上昇によって地球システムが転換点に至り、不可逆的に破壊されるリスクについては詳しく述べる。 その上で、化石燃料に依存するエネルギー利用から早急に再生可能エネルギー中心の持続可能なエネルギー利用への転換の重要性について論じる。日本における原子力利用の是非についても考察する。				
(2)世界の再生可能エネルギー動向～加速する再生可能エネルギー普及				
世界では 2024 年に再生可能エネルギー（以下、再エネ）発電設備の導入量が史上最高を記録するなど、最近、再エネ普及は急増している。その要因として途上国での普及増、再エネ発電コストの低下、再エネ 100%計画を持つ国の増加、市民地域主導による普及増加等がある。 国別の普及状況についても比較し、化石資源産出国のオーストラリアの再エネ中心社会を目指す政策への転換について紹介する。日本は大きく立ち遅れているが、その要因について考察する。				
講師からのメッセージ				
地球温暖化が急速に進行しつつあり、「待ったなし」の段階にきており、世界も日本も真剣に対応しないと未来世代の健全な生存を脅かしかねない。再エネ 100%への転換目指す重要性について認識を深めてほしい。				